

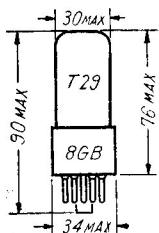
マツダ真空管 35Z5-GT

用途構造 半波整流管
特性概要 35Z5-GT 傍熱型高真空の半波整流管で交直両用の受信機に用いられます。ヒーターの中途にタップが出してあり、標示燈の端子電圧をここから供給するように設計されて居ります。

カソード 傍熱型(オキサイド被覆・等電位)
 ヒーター電圧 35V*
 ヒーター・タップ電圧 7.5V*
 ヒーター電流 0.15A*

バルブ T-29
ベース 8GB

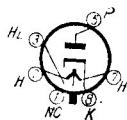
外形



電極接続

- 1 接続なし
- 2 ヒーター
- 3 ヒーター・タップ
- 5 プレート
- 7 ヒーター
- 8 カソード

ベース接続



最大定格

- 尖頭耐逆電圧..... 最大700V
- 尖頭プレート電流..... 最大600mA
- 直流出力整流..... 最大100mA**
- ヒーター・カソード間電圧..... 最大350V
- 消燈時の標示燈部分電圧(実効値)..... 最大15V
- 標示燈を動作させる場合
- シャント抵抗のない時..... 最大60mA
- シャント抵抗のある時..... 最大90mA

* 標示燈を動作させない時の値、尚ヒーター・タップ
電圧は脚2と脚3の間に出ています。

** 標示燈を動作させない時の値

標示燈を有するコンデンサー入力整流回路の動作例

脚3と7の間のヒーター電流	0.15	0.15	0.15	0.15	0.15 A
＃2と7の電圧	32	32	32	32	32 V
＃2と3の間の部分電圧	5.5	5.5	5.5	5.5	5.5 V
プレート交流電圧(実効値)	117	117	117	117	235 V
入力コンデンサー	40	40	40	40	40 μ F
全実効プレート電源インピーダンス(最小)	15	15	15	15	100 Ω
直流出力電流	10	70	80	90	60 mA
シャント抵抗(Rs)	60	300	150	100	— Ω

標示燈を有せぬコンデンサー入力整流回路の動作例

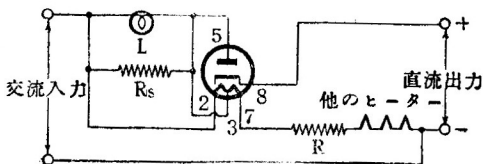
脚3と7の間のヒーター電流	0.15	0.15 A
＃2と7の電圧	35	35 V
＃2と3の部分電圧	7.5	7.5 V
プレート交流電圧(実効値)	117	235 V
入力コンデンサー	40	40 μ F
全実効プレート電源抵抗(最小)	15	100 Ω
直流出力電流	100	100 mA

直流電圧(入力蓄電器端子で)

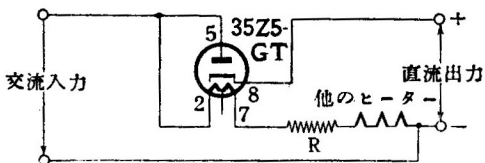
出力電流 50mA 時の出力電圧	約140	約280 V
100mA の時	約120	約235 V

標示燈は 6.3V 150mA を定格値とする豆球であります。

標示燈を動作させる時の使用例



標示燈を動作させない時の使用例



R及び全ヒーター(標示燈を含む)に於ける電圧降下は0.15Aの時100Vにひとしくなるようにとります。Rs シャント抵抗

参考事項

1. 任意の位置で使用可能
2. シャント抵抗 Rs は動作例で分る通り直流出力電流 60mA 以上の時にだけ必要なものであります。その標準値は動作例を見て下さい。又この値の最大値としましては直流出力電流 70mA に対しては Rs800 Ω 、80mA に対して Rs 400 Ω 、90mA 対して Rs250 Ω であります。

35Z5-GT 整流特性曲線
(半波整流)

Ef = 35V (脚2と7の間)(2と3の間には何の接続もない)

C = 入力蓄電器の容量

— 陽極交流電圧 235V RMS Zp = 100 Ω

--- " 117V RMS Zp = 15 Ω

